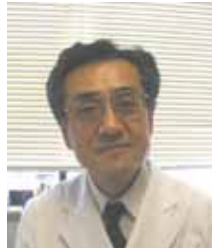




発行責任者：歯学部長 宮崎 隆，編集責任者：広報委員長 佐藤裕二
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000
ホームページ：<http://www.showa-u.ac.jp>

巻頭言 歯の記念日

歯科補綴学 古屋良一



様々な記念日が世界中に存在します。多くの場合、それは歴史的な背景や宗教的意味に由来します。また、各国や各地方においても、それぞれ独特な意味、例えば偉人や風俗、気候を背景にした記念日もあります。中には、語呂合わせによる記念日も存在し、特に日本では、日付を語呂合にした記念日が多くあります。これは、日本語の特徴として表音文字と表意文字があるからでしょう。

ところで歯に関係のある記念日にはどんなものがあるのでしょうか。先ず思いつくのが6月4日の「虫歯予防デー」です。6を「む」、4を「し」と読むことができるからです。この日は日本歯科医師会を中心に全国で様々なイベントが行われ、「良い歯の親子コンクール」が行われ、親子共々虫歯のない家族が表彰されています。この日の私の思い出は、小学生の頃、全校生徒の朝礼の時に、校医の歯科医が朝礼台上で、正しい歯磨法を大きな歯ブラシを用いてデモし、生徒全員がそろって練習したことです。確か、当時は未だ横磨きであったと記憶しています。最近では、「8020」運動が推進されており、80歳で20本以上の歯が残存している高齢者の表彰も行われていることは、周知の通りです。

次に思い浮かんだのは、平成13年度の日歯生涯研修セミナーの講師として福岡を訪れた際、県歯科医師会館の掲示板に貼ってあったポスターで知った4月18日の「よい歯の日」です。これは1993年に日本歯科医師会が制定したとのこと。他にないかとインターネットで検索したところ、これと同じと考えられるもので11月8日の「いい歯の日」が見つかりました。

また、毎月8日を「歯ブラシ交換日」と歯ブラシメーカーのサンスターが1997年に制定したとありました。歯ブラシは毛先が開いた時が交換の目安となっていますが、使用により経時的に弾性が落ちてくるので、1ヶ月で交換することを推奨するため、歯に因んで8日を交換日として制定したようです。実に商魂たくましい限りですが、良いアイデアです。また、誰が決めたのか不明ですが、10月8日は「入れ歯の日」だそうです。

さて、とりとめもなく歯にまつわる記念日について記してきましたが、何故こんなことを書いたかという、巻頭言執筆の依頼を頂いて、そろそろ締め切り間近となり何を書こうと考えたのが本校の創立記念日であったためです。本原稿の締め切り日は11月20日ですが、この日を「いい風呂の日」とでもしたら如何でしょうか。シャワーより風呂が恋しい季節となりました。これから寒い冬に向かうわけですが、中越地震の被災者の皆さんの越冬対策が大変に気がかりです。

教授就任挨拶

口腔微生物学 五十嵐 武



この度、10月12日付で口腔微生物学教室・教授を拝命いたしました。微力ながら口腔微生物学の教育と研究を通して、歯学部の発展に寄与して参りたいと考えております。

口腔微生物学教室では、口腔感染症の原因となる微生物の研究を通して、その原因を探求する基礎研究を行うと共に、その研究を臨床歯科医学の発展に応用していきたいと考えております。特に後者の研究では臨床各科の先生方のご協力（共同研究）が不可欠となりますので、何卒、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

一方、教育面では「感染と免疫」の講義と実習を通して、医学・歯学領域における微生物感染症の重要性とそれに対する生体防御システム（生体免疫）のすばらしさをわかりやすく説明し、将来の歯科臨床に役立つ基礎教育を行っていきたいと考えます。

加えて、今後の口腔微生物学教室の発展には若手の育成が必要不可欠であると考えます。私はこれまでに養ってきた知識、技術、経験等を生かし、口腔微生物学を志す若手研究者・教育者の育成に努めていきたいと思っております。一人でも多くの若者が口腔微生物学教室の門戸をたたかれることを望んでおります。

最後になりましたが、本教室の発展のために、これまで以上に皆様方のご指導とご鞭撻を賜りたく、何卒よろしくお願い致します。

報道された歯学部

- ・向井美恵先生：東京新聞 2004.11.2朝刊22面「高齢者と口腔のケア」講演会のお知らせ
- ・佐藤裕二：読売新聞 2004.11.15朝刊16面 気流：投稿「ローマ字の表記柔軟に見直して」

表彰

- ・越畑貞夫さん：田園調布消防署開署50周年記念 消防署長表彰（防火管理業務適切）11月9日
- ・歯科病院：品川歯科医師会から感謝状 11月20日



天津医科大学を訪問して

歯学部長 宮崎 隆



この度、久光 久教授と一緒に天津を訪問し、昨年度の大連医科大学に引き続き、正式に天津医科大学口腔医学院（歯学部）と本学歯学部との教員、大学院生、および学部学生間の交流プログラムの調印を行いました。天津医科大学は本学同様に、医学部、歯学部、薬学部など医療系の7つの学院を擁する医療系総合大学です。口腔医学院（歯学部）が正式に設立されたのは1988年で、初代の院長（学部長）である史教授と和久本貞雄名誉教授の親交があった関係で、開設式典に久光教授が参列し、その後多くの教員と交流を続けてきました。ちなみに現在の高院長は川和教授の下で1年間補綴学を勉強されました。

天津医科大学口腔医学院には、口腔解剖・生理学教室、口腔組織・病理学教室、口腔内科学教室、口腔外科学教室、補綴学教室、矯正学教室、予防保健学教室の7つの教室があります。歯科病院にはユニットが110台、ベッドが50床、職員は247名。診療科は口腔内科（保存科、歯周病科、放射線科、小児歯科）、口腔外科（インプラント科、歯周外科、顎外科、矯正外科）、補綴科（クラウン・ブリッジ科、有床義歯科）、矯正科、総合科（内科、救急科、物理療法科、心療内科）に分かれています。皮膚の美容外科を含む美容センターも開設していました。外来は1日約500名で、医療収支は黒字です。中国では技術の高い大学病院のほうが、市中の病院よりも高い診療費をとっているとのことでした。

学部教育は従来5年制でしたが、3年前から修士までの7年一貫制を導入しています。1学年の定員は30名。1年目は同じ市内の天津大学でコンピュータ、数学、理科等、本学でいう準備コアカリキュラムを学びます。2-3年目は天津医科大学の基礎医学院で、医学部ほか他学部の学生と医学の基礎を学びます。4年生で歯科の基礎を学び、5年生で臨床実習、その後卒論研究をして修士卒業となります。

歯科病院の基礎実習室や診療室の設備もすばらしいものでした。カボやシーメンスなどドイツ製の新しい設備の導入が目立っていました。久光教授が3年前に訪問したときに比べて、格段に設備が改善されているようでした。昨年、川和教授と大連を訪問して、中国の経済状況や歯科医療の進歩に驚かされましたが、今回はさらに中国の急速な発展を目の当たりにしました。これからの本学の学生にはぜひとも、選択実習を通じて生の中国の勢いを体験して欲しいし、教員、大学院生等の幅広い交流を一層深めていきたいと考えています。

天津医科大学 歯学部 院長 史教授と



高学部長と



第20回歯科医学会総会報告

広報委員長 佐藤裕二

平成16年10月29～31日、パシフィコ横浜にて、メインテーマを「健康な心と身体は口腔から」と題して開催されました。本会は4年に1回開催される大規模なものであり、本学からは佐々教授と佐藤が準備委員に加わり、2年以上前から準備が行われてきました。

学生のポスター発表コンペティションに13大学、26演題が出され、本学からは4題の発表があり、野村知香さん(D4)、上村祐加さん(D5)（口腔病理学の指導）が5位入賞を果たしました。また、今回は学生の正規の講義の一環であり、4～6年生316名が登録し、スーツ姿で積極的に学会に参加していました。

本学からの発表は、特別講演には須田名誉教授、シンポジウム・講演の座長として長谷川名誉教授、宮崎教授、佐藤の3名、テーブルクリニック5題、ポスター発表7題、視聴覚セクション3題があり、日頃の活動をアピールしていました。国際セッションには、昨年度来校されたタウンゼント教授も来られ、11月2日には本学でのセミナーも行われました。



医療安全に関する講演会

副院長 久光 久

昭和大学歯科病院医療安全対策委員会の主催で平成16年10月22日（金）午後5時30分から歯科病院6階第1臨床講堂において、講師：昭和大学病院医療安全管理室豊田進副室長による講演「病院の医療安全対策」が行われました。医療事故に関連する「医療過誤」「リスクマネジメント」などの言葉の説明からはじまり、事故発生時の対応、事故の種類、発生の原因や場所、患者が訴える理由、安全管理体制、法的責任と義務、権利などについて実例を挙げながら分かりやすく話をされ、患者との信頼関係を構築しておくことの大切さが強調されました。講堂に座りきれない138名もの多くの参加者が最後まで熱心に聴講しました。



入試案内・推薦入試結果

学部長 宮崎 隆

平成 17 年度の歯学部推薦・編入学試験が 11 月 14 日に行われました。推薦入試は指定校推薦、一般推薦合わせて 25 名の募集に対して 81 名(男子 40 名, 女子 41 名)の志願者がありました(昨年度より 32 名増加)。編入学試験は若干名の募集に対してほぼ例年並の 25 名(男子 16 名, 女子 9 名)の志願者がありました。試験当日は曇りで若干肌寒い天候でしたが、推薦・編入学試験ともに午前中の小論文試験に続いて、午後には基礎学力テストおよび面接試験が行われました。

合格発表は推薦、編入学試験ともに 17 日に大学の掲示板とホームページ上に掲載され、推薦入試では男子 11 名, 女子 14 名が合格しました。また、編入学試験は男子 4 名, 女子 1 名(例年よりも男子の合格者が増加)が合格しました。なお、11 月 28 日(日)には、入学後の授業に無理なく適応できるよう、推薦・編入学者にガイダンスを行う予定です。

今後の予定

試験	募集	出願	試験	発表
センター	10人	H17.1.4-1.22	H17.1.15,16 H17.1.29	H17.2.4
選抜	53人	H17.1.4-1.22	H17.1.29	H17.1.31
選抜	8人	H17.2.14-3.1	H17. 3.6	H17.3.8

消防訓練で歯科病院 女子隊が 準優勝

平成 16 年 10 月 22 日に田園調布消防署主催の自衛消防訓練審査会(旧多摩川ラケットクラブ・多目的広場)において、昭和大学歯科病院女子隊(早瀬裕美さん, 天野意子さん, 大谷尚子さん)が、参加した 8 チーム中、準優勝となりました。今後の歯科病院の自衛消防活動の柱になってがんばって頂けるものと思います。



教職員の声

教務課歯学課長 栗田晃

旗の台キャンパスにて(雑感)

D 4 の皆さんが旗の台キャンパスで学生生活を営むようになり、7 ヶ月が経過しました。もともとあまり広くないキャンパスに一学年の人口が増えた訳ですから、どこかにしわ寄せが来るのは必定と思いますが、医・薬など他学部の学生さんと共存しているため、歯学部担当教務課員としては、“やっぱり歯学部の学生さんはマナーがいいね!” などと言われるとやはり嬉しいものです。当然その逆は辛い思いをします。我々職員も含め、お互い思いやりをもちたいものです。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

海外留学生紹介

口腔生化学教室 上條竜太郎

口腔生化学教室には、中国人大学院生, Baohong Zhao (趙 宝紅) 先生が在籍しています。Zhao 先生は、北京大学口腔医学科を 2001 年に卒業、その後、同大学口腔医院特診科に所属し、中国に滞在する外国人の歯科治療に携わってきました。

研究面では、CO₂レーザー照射後の歯肉上皮の治癒過程に関する研究をはじめとして数報の原著論文を発表しています。当初より骨代謝の生化学に興味をもっており、昨年 4 月 1 日より、昭和大学外国人研修生として口腔生化学教室で研究生活をはじめました。

本年 3 月に研修期間を終了し、引き続き大学院生として研究を続けています。口腔生化学教室では当時、骨誘導因子(BMP)の骨芽細胞分化誘導作用がヘパリンにより増強されることを見出していましたが、Zhao 先生はこのヘパリンの作用機序の解明に取り組み、既に数回の学会発表を経て、現在はその成果を投稿準備中です。

Zhao 先生はてきぱきと実験をこなす一方、研究室の細かなところまで気を配り、その行動には周囲の人々に対するさりげない優しさを感じられます。最近日本語もかなり上達し、中国の話もいろいろと聞かせてくれます。その内容は興味深いもので、それほど遠くない隣国のことを、私たちがあまりよく知らないことに気付かされます。

口腔生化学教室のメンバーになって 1 年 6 ヶ月が経過し、他の大学院生やスタッフともうちとけて、いまや研究室になくはない存在となりました。時々作ってくれる本場中国の餃子は本当に美味で、勝手な理由をつけては餃子パーティーを企画し、大量の餃子を作ってもらっています。

大分慣れたとはいえ、言葉のみならず、気候、習慣の全く違う土地での生活は決して楽ではないはずです。母国を離れて暮らす苦労は経験したものにしかわからないかもしれませんが、日本での研究生活が、あらゆる意味で有意義なものとなるように協力できればと思っています。



実習室にて学生と
(中央 趙 宝紅先生)

大学院 期 出願締切近づく！

大学院運営委員会委員長 立川哲彦

試験日	出願期間	合格発表	入学 手続	入学辞退 締切
H17.2.19 (土)	H17.1.6 ~2.10	H17.3.9 (木)正午	H1.3.10 ~3.17	H17.3.1 (木)

本年度より、従来の一般選抜の他に、社会人特別選抜が設定されました。これは社会人（研修医を含む）が夜間、土曜日、夏休みに教育を受け、学位取得を目指すものです。語学試験も同時に行われます。説明会は右記の研修医説明会と併催されます。詳細につきましては、教務部にお問い合わせください。

病院運営委員会300回

平成16年10月27日(水) 歯科病院長 川和忠治

昭和大学歯科病院は歯学部の開設に遅れること3ヵ月後の昭和52年6月29日(水)に開院し、27年以上が経過しました。記録によると第1回の委員会は開院の翌日(30日(木))の午後2時から開催され、名称を病院運営委員会とすること、開催日時を毎週水曜日の午後2時からとすること、急患の受付体制などについて話し合われています。出席者は18名で、初回から出席されている現職の先生は、南雲、佐々、宮下、久光先生の4名です。永い間ご苦労様です。記録によると第4回の委員会までが毎週、第5~7回の委員会までが隔週での開催でした。第8回の委員会から現在と同じ毎月1回4時からの開催となりました。区切りの第100回の委員会は昭和61年7月30日(水)に開催され、病院長から診療統計報告と不二ビル賃貸が理事会で承認されたことの報告がなされております。第200回の委員会は平成7年9月27日(水)に開催され、10の委員会からの報告がなされております。そのなかで主な内容は、共同指導の件、診療プログラムの検討、高度先進医療「人工歯根を応用した骨結合によるインプラント義歯」の承認についてでした。ちなみに第500回の委員会は18年先の2022(平成34年)、第1000回の委員会は80年先の2092(平成84年)4月に開催されることになるでしょう。無事にそうなりますことを祈念致します。



研修医説明会のご案内

総合診療科 長谷川篤司

昭和大学歯科病院では、平成17年度も広く臨床研修医を募集します。このため、12月13日(月)16:30から歯科病院1号棟6階第1臨床講堂にて「平成17年度昭和大学歯科病院臨床研修説明会」を行います。参加を希望される方には事前申し込みをお願いしております。参加申し込みの詳細は、昭和大学歯科病院ホームページの臨床研修医募集要項<http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/dent/center/kenshui/>をご覧ください。歯科病院管理課臨床研修医担当03-3787-1151(代表)までご連絡ください。出身大学を問わず、臨床に対する熱意のある方の参加をお待ちしております。申込締切は12月9日(木)です。

診療統計(平成16年10月分)

区分	患者数	1日 平均	前月1日 平均	前年同月 1日平均
外来患者	16,166	702.9	755.4	683.5
新患	1,093	47.5	51.0	49.8

行事予定 広報委員長 佐藤裕二

12月 3日(金)：歯科病院ボーリング大会・五反田
12月 4日(土)：昭和大学歯学会(歯科病院)
12月13日(月)：大学院・研修医説明会(歯科病院)
12月14日(火)：大学忘年会・杉戸 シヤック東京・品川
12月28日(火)：仕事納め
1月 4日(火)：仕事始め
1月15-16日：センター試験
1月29日(土)：選抜 期・センター試験併用入試
2月19日(土)：大学院 期入試
2月21日(月)：臨床研修医出願締切
2月25日(土)：臨床研修医選考

編集後記 広報委員 中村史朗(口腔生理学)

今号を担当しました中村史朗と申します。私は今年4月から昭和大学に赴任しました。新しい職場での仕事はどれも新鮮であります。勝手がわからず間違いやミスを犯すことが時々あります。この「歯学部だより」の仕事を通して昭和大学の行事やシステム、幅広い活動など、いろいろな面をみることができ、とても勉強になりました。しかし編集についてもまだまだ不慣れな点や至らない所が多数あり、原稿の依頼に協力していただいた先生方をはじめ、広報委員および委員長佐藤先生にご迷惑をおかけしたことを思います。先生方や読んでいただいた人たちの声を今後参考にしていきたいと思っておりますので、今後ともご指摘ご指導宜しくお願い致します。

次号は12月28日発行予定です。
記事をお寄せください。